

パンデミックインフルエンザ アラート 2010/8/9

懸念されるインドの状況

A/H1N1 インフルエンザ感染者数と死者数の増加

ウイルスの特性に変化の可能性

5月末にモンスーンが到来してからインドではA/H1N1感染者が増えだし、第2波が発生した。

モンスーン時期にはインフルエンザウイルスの感染性が増すことから、当局では予想していた範囲内の状況であり、心配する理由はないとしていた。

しかし感染者数と死者数の増加率は、7月に入ってから急上昇しはじめ、当局の予想を超えた。

マハラシュトラ州プネ市の国立ウイルス研究所では、昨年の感染率が15～25%であったのに対して、現在のウイルスの感染率は40%であると警告している。すなわちA/H1N1ウイルスの特性が変化した可能性を示唆している。

また8月8日に西ベンガル州保健局が発表したデータでは、今年度の同州における累積感染者数が118人となり、また死者数も4人となっている。重要なことは、昨年の第1波での感染者数は135人で、死者は発生していなかったことである。すなわち西ベンガル州では、第二波の方が第1波よりも被害が大きく出始めているといえる。ウイルスの特性に変化が出始めたことも想定しなければならないのであろうか？

一方、8月6日に発表されたWHOのパンデミックインフルエンザ情報でも、インドにおける感染者数の増加を指摘しているが、現時点ではウイルスの特性には変化はなく、インドにおける現在の流行（第2波）は、昨年の第1波を越えないと推定している。しかしそれは現時点では確定的ではないと含みも持たせている。

高致死率の疑い

インドの公式発表による感染者数は昨年5月から本年8月1日までの期間に35298人とされ、死者数は1750人とされる。これらの感染者は全て検査で確認された事例だけである。

これらの数値から得られる致死率は4.96%となり、これは1918年に発生したスペインインフルエンザにおける致死率2%を軽く超える。

一方、本年7月26日から8月1日までの1週間の感染者数は629人、死者数は58人とされる。この場合の致死率は9.2%となり、2003年に流行したSARSのそれに匹敵する。

因みに前週（7月19日から7月25日）は、感染者数が548人、死者数が38人で、致死率は6.9%となっている。

インドの統計データがどの程度正確に調査されたものか判断は難しいが、致死率の異様な高さは、母集団となる感染者数が正確に把握されていない可能性を示唆する。

一般的に A/H1N1 の致死率は、0.01%以下とされているが、もしインドの場合、0.01%の致死率であるとしたら、感染者数は公式発表の500倍から1000倍となる。

すなわち昨年5月以来の感染者数は、1700万人から3500万人となる。

しかし実際の死者数もさらに多い可能性がある。

一般的感染率、すなわち人口の2割が感染したと考えてみると、人口12億人のインドでは2億4000万人の感染者数となる。そして致死率を0.01%とすると2万4000人の死者数となる。

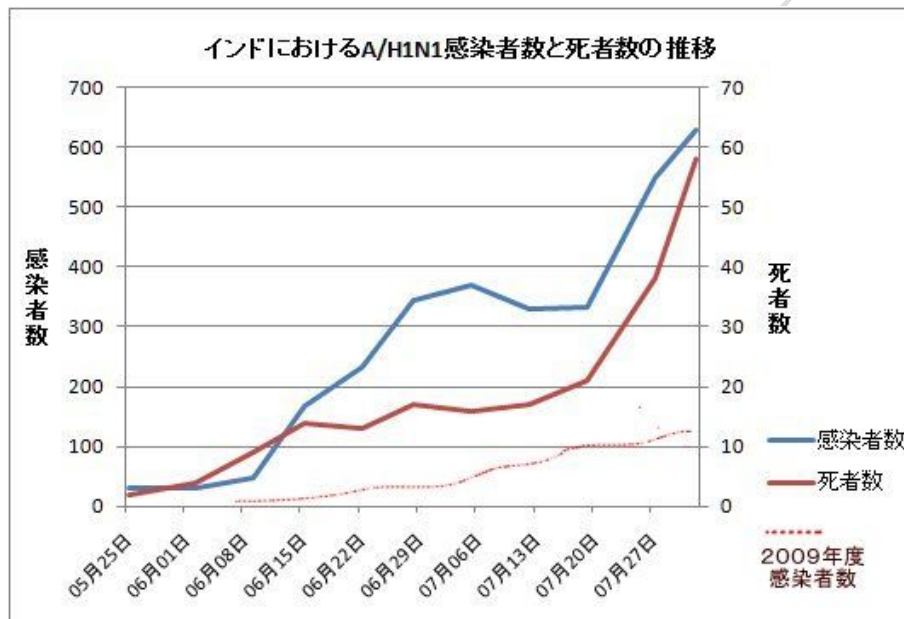
すなわち、これまでの一般的知見から考えると、インドでは感染者が2億4000万人前後、死者数が2万4000人前後発生と推測することも可能とである。

しかしこの計算は、インドにおけるウイルスの特性に変化がないことを前提としたものである。

一方、8月1日までインド保健省から発表された公式データから感染者数と死者数の推移をグラフ化すると次のようになる。7月中旬から感染者数と死者数が急増している。この理由は6月は西部のマハラシュトラ州と南部のケララ州を中心に感染者が出ていたのに対して、7月に入ってから東部や北部でも感染拡大が起きたことによる。

破線で昨年の第1波における感染者数の推移を表しているが、本年はこれまでのところ感染者数は数倍多くなっている。

また死者数も7月中旬以降急増している点も気になる。

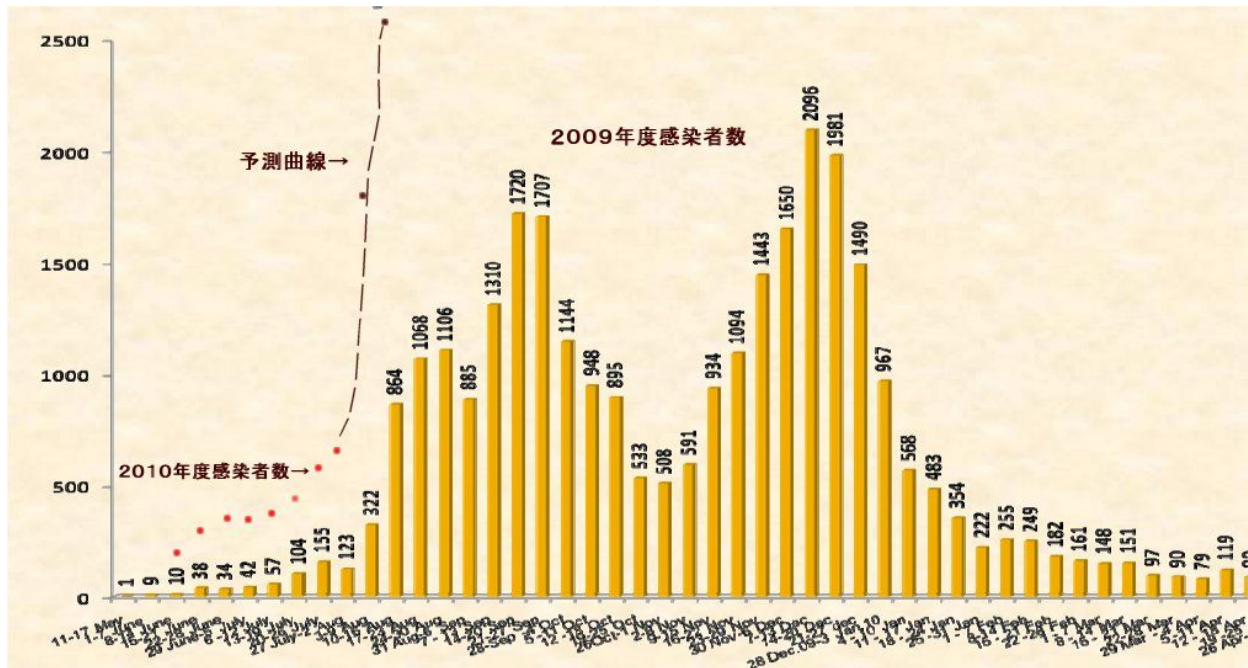


インドの流行予測

今後のインドにおける感染者数の推移を昨年の流行曲線を参考に描くと以下の図となる。

昨年は、モンスーン期である6月から9月と冬期間に入った後に流行の波があった。

感染者数の増加が早い段階で止まると別であるが、現在の増加率で辿るとしたなら、今年度の感染者数は昨年の数倍となる。



現在の感染者数の増加が止まる可能性も考えられるが、その場合の理由として、昨年の流行で一定の集団免疫が国全体で出来ていることが上げられる。

しかし、昨年、どの程度の集団免疫が出来たかは不明確であり、現時点では、そうした仮説を信頼することは、対策を考慮する上で危険と考えられる。

インドにおける感染者数がさらに増加し、死者の高発生率も続く場合は、ウイルスの特性変化、さらには変異も視野に入れる必要があるかも知れない。

なおインドにおける統計データが不正確である根拠として以下の問題を指摘しておく。

各州における感染者数と死者数の割合に一定の傾向がないことから、感染者数の把握方法に基準がない可能性がある。

8月6日発表の直近1週間のデータを例にすると：

マハラシュトラ州 感染者数 273人、死者数 35人

カルナタカ州 感染者数 109人、死者数 0人

ケララ州 感染者数 50人、死者数 10人

デリー市 感染者数 38人、死者数2人

西ベンガル州 感染者数 44人、死者数 2人

グジャラート州 感染者数 6人、死者数 6人

現在のインドにおけるA/H1N1 インフルエンザの流行状況の問題点をまとめると以下の通りとなる。

- (1) 昨年の第1波を上回る感染者数の増加
- (2) 異常に高い致死率
- (3) 感染者の入院率の高さ

(4) ウイルスの特性（感染力と病原性の高さ）変化の可能性

(1)～(3)は統計データの不正確性に起因している可能性もあるが、総体としては危惧すべき状況にある。

(4)は現時点でWHOは否定している。

インドにおけるA/H1N1 ウイルスの特性に変化がないことが確認されると安心できるが、初期に南部や西部の州で感染を繰り返していたウイルスと、現在西ベンガル州やオリッサ州等で多くの感染者と死者を出し始めているウイルスが同一なのかも気になることである。

ウェブ管理人

T. TONO-OKA, MD